

## コロナ禍における当院生理検査室の取り組み

法人名 国家公務員共済組合連合会  
 病院名 横須賀共済病院  
 職種・所属 中央検査科 生理検査室  
 発表者氏名 清水菜緒  
 協力者氏名 森崎優也 小原早苗 里見郁 難波真砂美 津浦幸夫

### 【はじめに】

日本では2020年より新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行し、日常の生活様式が大きく変化した。一般的な感染対策としてマスク着用や手指消毒、ソーシャルディスタンスなどがニュースでも取り上げられるようになってきた。しかしながら、臨床検査技師においては患者と接する機会が多く、特に生理検査はマスクを外して行う検査や患者と密に接する必要があるため感染リスクが高い。そこで、スタッフの検査に対する不安軽減や患者が安心して検査を受けられるように当院生理検査室が実施した取り組みを報告する。

### 【取り組み内容】

- ① 待合室に空気清浄機を設置し、患者同士がソーシャルディスタンスを保てるよう椅子に張り紙を貼ることで密にならない工夫を実施。
- ② 椅子や検査室のドアノブ等患者が触れる場所は一患者毎に消毒の徹底。
- ③ 急患患者は前患者に対しN95およびガウン着用の上、心電図検査を実施。
- ④ 特に感染対策が必要な呼吸機能検査における感染対策の徹底。

上記取り組みの中でも特に、④呼吸機能検査においては検査時に患者はマスクを外し深呼吸や強制呼吸を行う必要があり、周囲への飛沫汚染やエアロゾルの拡散により感染リスクが高い。日本呼吸器学会では「COVID-19が疑われるような発熱や咳等の症状を有する場合には検査を中止すること、不急の場合は問診や体調確認を行った上実施の可否を慎重に判断すること」<sup>1)</sup>と提言している。そこで当院では検査実施条件を設けるとともに検査実施に際しては感染対策を講じた。実施条件として、術前スクリーニング検査の場合は原則60歳以上、内科からの依頼は年齢に関わらず実施することとした。いずれも発熱時（37.5℃以上）は主治医に相談し指示を仰いだ。また、感染対策については、検査室の窓を開放し、サーキュレーターにて室内空気を循環させ常時換気を行っている。検査者はN95マスクとフェイスシールドを着用、患者との間にはビニールカーテンを設置し飛沫感染を防いだ。検査機器に関しては患者毎にアルコール消毒を実施し患者が安心して検査を受けられるよう感染対策を徹底した。その他の取り組みについては学会発表にて報告する。

### 【まとめ】

今回の取り組みで新型コロナウイルス感染症だけでなく、様々な感染症に対してスタッフや患者の安心・安全を保つ生理検査室としての感染対策の基盤を整えることができたと考えられる。なお、2021年5月現在まで当院中央検査科での院内感染は“0”である。

参考文献 1) 一般社団法人日本呼吸器学会

「新型コロナウイルス感染症流行期における呼吸機能検査の実施について」